

「さんべで体験 FRIEND CAMP！」

1 趣 旨

- (1) 日本で暮らす外国籍などの外国にルーツがある親子が日本の伝統文化（書道・神楽等）に触れる体験を通して日本の文化を知ったり親子の絆を深めたりする。
- (2) 親子が体験活動に親しむことの楽しさを感じ、事業後も体験活動をしてみたいという意欲につながる。

2 事業の概要

- (1) 期 間
令和4年8月6日（土）～ 7日（日）＜1泊2日＞
- (2) 会 場
国立三瓶青少年交流の家
- (3) 協 力
大田日本語サークルこだま 島根県外国人地域サポーター（出雲）
- (4) 対 象
日本の伝統文化に関心のある大田市とその近隣市町村に在住の外国にルーツがある親子
※小学校等の児童又は中学校等の生徒とその家族
- (5) 参加者
4人（1家族） ※募集10家族30人程度
- (6) 日程・内容

時間	8月6日（土）	時間	8月7日（日）
10:00	はじまりの会 所内の施設確認	6:30	起床
12:00	昼食（ビュッフェ）	7:30	朝食（ビュッフェ）
13:00	日本の伝統文化「書道体験」 布団敷きタイム	9:00	日本の伝統工芸体験「和紙の工作」
17:30	夕食（ビュッフェ） 入浴	12:00	昼食（ビュッフェ）
19:00	日本の伝統文化「神楽鑑賞」	13:00	おわりの会
22:30	就寝	13:30	退所

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

①「知る」「見る」「する」を意識した内容構成

本事業は、日本で暮らす外国籍などの外国にルーツがある親子に日本の伝統文化に触れる場を提供することで、日本での生活に対する不安感を軽減したいと願い行ったものである。そこで、日本の伝統文化の魅力を十分に体験できるように「知る」「見る」「する」を意識して内容を構成した。

初日午後の書道体験では、はじめに、日本での毛筆の歴史や筆の使い方と書き方の基本について「知る」場面を設定した。また、筆の使い方や書き方の基本についてより視覚的な理解につながるように、スタッフによる説明と、文部科学省が動画共有サービス（YouTube）上で公開している映像資料「習字の基礎」を活用した「見る」場も設定した。次に、「する」場面として実際に毛筆を体験する時間を設定した。そして、参加者とスタッフが一体となり、みんなで書道を楽しめるものになりたいと考え、最後には全員で1つの作品を作る時間を設定した。

初日夜の神楽鑑賞では、はじめに、スタッフから神楽団の方にインタビューする形式で神楽の起源や神楽団の舞いの特色を尋ね、神楽について「知る」ことができるようにした。そして、実際に「見る」ことに加えて、神楽の上演後には事前に神楽団に依頼した神楽の衣装や面に触れたり写真

撮影をしたりすることのできる時間を設定した。

二日目に行った和紙と木の枝を用いたオリジナルのランタン作りでは、「する」ことを特に重視した。講師が作り方を一通り説明した後、すぐに作品づくりに取り組んだ。また、最後には部屋の電気を消し、出来上がったランタンに灯（ロウソクの火のようにゆらぐLEDライトの光源）を入れて作品鑑賞を行った。

②家族を単位とした活動

本事業を通して家族の絆を深めたいと考え、書道体験や和紙の工作の時間は家族単位で活動するようにした。また和紙の工作では、親子で試行錯誤しながら取り組む中で自然と活発な会話が生まれることを期待して子供1人につき1つの作品を作ることにした。

③文化の違いに配慮した内容とスケジュールの設定

本事業の参加対象者は外国にルーツのある家族であることから、保護者を含め公衆浴場や集団宿泊に慣れていないことが予想された。そこで、はじまりの会の後には施設案内の時間を設定したり、昼食の食堂利用時にはスタッフも一緒に食事をしたりした。また、参加者が布団の使い方に慣れていないのではないかと予想し、布団の敷き方をレクチャーする時間を設けた。さらに、各活動の時間を多めに確保することで余裕のあるスケジュールの設定を心掛けた。

(2) 運営（連携）のポイント

事業の企画段階から地元大田市で活動する「大田日本語サークル」代表の平田節子氏や島根県外国人地域サポーター（出雲市）の堀西雅亮氏に適宜相談し、助言を受けた内容をプログラムに反映させるようにした。また、事業の1週間程度前にはお二人に来所いただいて打合せを行い、事業日程の最終確認を行った。そして、平田氏と堀西氏には都合のつく範囲で事業当日も同席を依頼し、その場ですぐに参加者のサポートができる体制を整えた。

言語面のサポートについては、まず募集段階から、より多言語に対応できるように英語翻訳版のチラシを用意した。また、近隣の出雲市にはブラジル出身の方が多く在住されているという実態を踏まえ、ポルトガル語翻訳版も用意した。この英語とポルトガル語の翻訳版チラシの作成に当たっては、大田市国際交流員のサトウ・アンドレイア・ユリコ氏にネイティブチェックをしていただいた。さらに、勤務の都合で初日の日中のみとなったが、サトウ氏にも平田氏や堀西氏と同様に事業当日に同席を依頼し、その場ですぐに参加者のサポートができるようにした。

くわえて、スタッフが参加者のサポートをしやすい体制を整えるために、和紙の工作では講師を島根県キャンプ協会理事の濱野健一氏に依頼した。

(3) 広報のポイント

平田氏・堀西氏に依頼し、チラシ配布するとともに、本所のホームページやFacebookを活用して情報発信を行った。また堀西氏からの助言を受け、「しまね国際センター」や出雲市の「文化国際室」に依頼し、各所のホームページやFacebookでも広報をしてもらった。



図1：本所のFacebookを活用した広報



図2：出雲市文化国際室のFacebookを活用した広報

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

【1】書道体験について

「楽しいものですね。」

「集中してしまいました。」

【2】神楽鑑賞について

「笛の音色が素敵ですね。」「大蛇が本物みたいでした。」

「住んでいるところの近くにも神楽があるのは知っていましたが、見に行ったことがありませんでした。これからは見に行ってみたいです。」

【3】和紙の工作

「紙と枝でこんなに素敵なものができるとは思いませんでした。」

【4】日本の生活に対する困り感や事業に対する意見

おわりの会にあわせて、参加者と運営スタッフ一緒になって振り返りの場を設けた。そこでは、以下のような意見を聞くことができた。

①日本での生活に対する困り感

→「日本語が話せれば大丈夫ですよ。」

②事業に対する意見

→「2日間のうち1日だけの参加もOKだと参加しやすいかもしれません。」

→「他の外国出身の親子とスポーツをしてみたいです。」

5 成果と課題

《成果》

上記4の(2)にある参加者の声【1】～【3】からは、参加者が日本の伝統文化を体験したり見たりすることを存分に楽しむことができたことが分かる。また、日本の伝統文化のもつ魅力や実際にこれらを体験する楽しみを感じさせたりすることにつながったことも分かる。つまり、「日本での生活への親しみを感じ、『生活・自立』のきっかけをつかめるようにする」という「生活・自立支援キャンプ」事業として目指す参加者の姿であった。

同時に、「住んでいるところの近くにも神楽があるのは知っていましたが、見に行ったことがありませんでした。これからは見に行ってみたいです。」という感想にあるように、日本の伝統文化・芸能の面白さを実感し、自ら積極的に関わっていききたいという意欲の高まりが感じられた。これはまさに「体験活動普及啓発」というねらいにも迫るものである。

《課題》

本事業を初めて実施した今年度は、「どのような機関とつながっておくとよいか」が分からないままに企画・立案を開始した。このため、事業の直前になって県の「国際センター」や近隣自治体の役所での情報発信を依頼したり、地元大田市の国際交流員に翻訳版チラシのネイティブチェックや当日の事業への派遣依頼をしたりすることになった。

また、連携先機関以外に参加者募集のための積極的な広報に協力してもらえる事業所等の当てもなか

った。このことが、応募者が集まらなかったという結果につながったと考える。なお、今回は参加家族が1組であったことから、家族単位での活動を通じた親子の絆の深まりの有無について十分な検証ができたとは言いきれない。この点でも、多くの家族からの応募が得られるような広報の工夫が必要である。

これらのことを踏まえ、企画立案に当たっての助言や広報協力を得られる機関と早い段階からつながり、計画的に準備を進めていくことが次回への課題であると考え。まずは外国にルーツがある家庭について、日本での生活に関するニーズの把握に努めたい。そして、連携機関と目的を共有し、宜情報共有を図ることで事業の立案と実施につなげていきたい。

《今後の展望》

今回は、「生活・自立支援キャンプ」事業であることから対象者を外国にルーツがある家族にしていた。しかし、日本の伝統文化を体験することは、日本の子どもたちにも価値のあることであり是非体験させたい。募集対象年齢を変えたり、活動内容を工夫して複数日実施したりするなどして、一層の体験活動普及啓発につなげたい。



「書道体験」の様子①



「書道体験」の様子②



「書道体験」の様子③



「神楽鑑賞」の様子①



「神楽鑑賞」の様子②



「神楽鑑賞」の様子③



「和紙の工作」の様子①



「和紙の工作」の様子②



「和紙の工作」の様子③

(担当：企画指導専門職 向原 将平)